

観光協会ヒアリング要約

令和 8 年 6 月 12 日

観光資源

- カシオの G-shock、ココロの恐竜など、民間企業の存在も財産である。
- 民間企業やたくさんある臨済宗のお寺とコラボすれば、新しい観光資源が生み出せるかもしれない。

情報発信

- 羽村市はアピール力、発信力が足りない。
- 既にあるものを活かすことが出来ていない。
- チューリップまつりの後、水田で稲作していることを、市民でも知らない人がいる。
- ハロー FM との連携など、興味関心を促すためには、情報を届ける施策が必要。
- また、観光資源を知らせるだけでなく、同時にその資源を活用したイベントを仕掛けていく必要がある。山口軽便鉄道の跡地を歩くイベントなどが直近の良い例。

計画

- 計画は総論なので、概念的であいまいな内容だが、各論では、具体的かつ際立った施策を展開していかなければならない。
- 各事業の記載の仕方として、新規事業を継続事業を分けて記載し、時期計画の中で何を重要視していくのか、明確に示すべき。

要望

- 羽村には名産品と呼べるものがない。
- 民間企業が新商品を開発するためのバックアップ体制も整っていない。
- 補助金や何らかの支援体制を構築すべき。

今後の取組

- 他自治体ではやっていないこと、体験できないことを提供していく必要がある。
- 人々の価値観は、モノからコトへ変わっている。体験型イベントを考えるべき。
- 参加者がお客様感覚で参加するのではなく、ともに参加するイベント、ともに作り上げていくイベントがあれば、何度も羽村市を訪れ、羽村市を好きになるはず。
- 羽村市は、都心からのアクセスがある程度良いうえに、いい意味で西多摩らしさが残っている。
- お寺での座禅体験、茶道体験、うどん打ち、そば打ち、稲作等農業体験など、田舎くさを上手く使っていけば、都心の人や外国人観光客を取り込めるはず。